令和2年度第2回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日	令和3年1月15日（金） 書面会議 令和3年1月25日（月）意見集約
意見等提出状況	提出：高瀬委員、栗井委員、岡崎委員、高橋委員、溝渕委員、石川委員、菅原委員、石谷委員、 未提出：なし
議事内容	1 第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画評価シート（案）について （1）意見等 ①委員からのコメントについて、「課題」の記載が「意見」や「要望」等も含まれているように思いますので、それぞれに合ったタイトルにはいかがでしょうか。 修正等 「課題」につきましては「意見」と「要望」に分けて記載させていただきます。 ②目標1「イ 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進」について、「市民1人1日当たりのごみ排出量」の削減は、集団回収による「資源ごみ回収量」が減少傾向にある「リサイクル率」を高めていく上でも不可欠ですが、罹災ごみや地域高齢化に伴う除却の影響も大きく成果の読み取りが難しい指標になっています。 「市民1人1日当たりのごみ排出量」は基本的な指標として固定しつつも、『粗大ごみ』を除いた数値を参考指標として、その推移をみる」、また「省エネモニター調査に替わるものとして、ごみ減量をモニタリングする仕組みやプログラム（環境家計簿への追加等）を構築する」など、実効性のある打ち手を探るために、全体の傾向を捉える方策を模索することが必要と考えます。 ※資料1の3ページ「課題」第1項目に関連 修正等 委員からのコメントに「意見」として追加します。 新たな指標の設定については、今後の課題にしたいと思います。 ③目標2について、「移動」と「住居」の観点から脱炭素化の取り組みを促進する方策は、大変有効だと考えます。「住宅」等に係る省エネルギー対策、再生可能エネルギーの導入拡大については、LEDに加え、ZEHやZEH-M、ZEB、また、環境負荷の少ない電力供給についての促進していくことが有効であり、市民や関連企業・事業者等に情報発信していくことが必要です。情報発信することについて、時勢に即してどのような情報に焦点を当てて発信していくことが有効かを、改訂版に記載するとよいと考えます。 修正等 環境負荷の少ないエネルギーの促進について、第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画【改訂版】に記載します。

(2) 対応等

修正後の評価シートを環境市民委員会より滝川市長に提出します。

2 滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書（案）について

(1) 意見等

①「1 ごみの減量化・分別について」に「回収の多くを占める集団資源回収を中心に、今後も継続できる体制をサポートいただきたい」とありますが、どのような体制やサポートが必要でしょうか。集団資源回収における課題を明示した上で、それに対応して必要なことを、より具体的に書き込められればと思います。

修正等

集団資源回収は町内会を中心に行われており、回収量に応じて市より奨励金が交付されます。近年、町内会活動参加者の減少や高齢化、新聞購読者の減少、飲料の缶からペットボトルへの変更、容器の減量化等により資源回収量は減少傾向にあります。奨励金は町内会活動の貴重な財源であるとともに、活動そのものが地域コミュニティとして重要と考えております。「奨励金交付手続きの簡略化等」について付け加えます。

②「2 地球温高対策の推進について」では、資料1に関する上記の意見も踏まえ、「気候危機が現実的なものとなっており、国内においても脱炭素化に向けた動きが急速に進んでいる。今後も『移動』や『住居』における脱炭素化を、市民や事業者への情報提供や、市の率先的な取り組みによって推進していただきたい。街路においては～」といった、全体としての現状認識を踏まえた上で、具体論に移ってはどうかと考えます。

修正等

修正しました。

③「3 その他」の「SDGsについては」以降は、例えば以下のような表現ではどうかと考えます。

また近ごろ、広く社会に知られるようになったSDGs（持続可能な開発目標）は、環境と経済、社会の3つの側面は不可分であり、統合的な向上のために、多様な主体との協働が重要であるとしている。市の取り組みを展開する上で、SDGsを活用し、他分野との連携を進めていただきたい。

修正等

修正しました。

(2) 対応等

修正後の提言書を環境市民委員会より滝川市長に提出します。

3 第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 改訂（案）について

(1) 意見等

①P3 「4 計画期間」の第3段落 令和2年度以降

SDGsは環境対策ではなく、また、積極的に取り組んでいるのは企業のみではないため。加えて2018年（平成30年）から19年（令和元年）に認知度が高まっているため、「令和2年度には、SDGs達成に向けた政府や企業の取組の進展や、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に伴う社会の変化を踏まえ、計画の見直しを行いました。」にしてはいかがか。

修正等

修正しました。

②P3 注釈修正案

「平成27年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発目標」で、2030年末までに持続可能でより良い世界の実現を目指す国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成され、環境と経済、社会の3つの側面の統合的向上を目指します。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む普遍的なものであり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。」

修正等

修正しました。

③P6 「ウ 滝川市における3Rの推進」ですが、記載内容はリユースについてのみであるため、「(ウではなく、アとして) タイトルにあわせて内容を記載するか、「(いまのウの位置で) タイトルを変更する」必要があると考えます。

修正等

3Rに取り組むとしており、実質はリユースですが「リサイクルフェア」という名称にてリサイクルも推進していることから原文のままとします。

④P7 の図2では、平成29年度は555gとなっていますが、平成30年度版の年次報告書の表では601gでした。また、P28 目標値が500gから580gに目標が下がっていますが、処理基本計画に記載されている根拠を含め、「資料1」ではなく本文中に記載する必要があるのではないのでしょうか。

修正等

市民1人1日当たりのごみ排出量について参照する資料により違いがありました。平成29年度は555gに修正します。P28の目標値については540gに変更し、本文中に記載しました。

⑤P12 「ア 農業体験授業の実施校数」の指標について、中長期的に、実数の累計ではなく「市内幼小中高のうち実施した校数の割合」に変更した方がよいと考えます。また今後は、農業に係る教育と環境に係る教育を区分するのではな

く、統合していくことが有効だと考えます。

修正等

修正しました。

併せて、P24 No.2の目標値を累計実施校数から実施率に変更しました。
農業教育と環境教育の区分については、今後の課題にしたいと思います。

⑥P13 「ア 環境に関わる市民活動の状況」の4段落で、「これらの活動から」とありますが1～3段落と4、5段落は別の内容になっているので、「また」とし、第5段落は接続詞がなくてよいかと思います。

修正等

修正しました。

⑦P14 注釈 ESDの注釈

「SDGsの取組のひとつ」とありますが、SDGs以前より日本が提唱している概念です。SDG4と結びつける向きもありますが、同一のものではないため、誤解を招かないよう「SDGsの取組のひとつ」は削除された方がよいと思います。

修正等

修正しました。

⑧P15 「イ 環境市民大会の参加者数」は（資料1からすると）今後は指標としないということになりますでしょうか。残すのであれば、目標の置き換えを変える必要があるかと思いました。

修正等

数値目標を加えました。

⑨P24 (3) 成果指標に現状をいれたらどうでしょうか。

修正等

(3) 成果指標のNo.1及びNo.2に現状を加えました。

併せて、P25 (3) 成果指標No.2を加え、成果指標No.3に現状を加えました。

意見以外の修正等

⑩P28 成果目標における数値目標の考え方に

当初目標 ～ 平成28年3月 第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画策
定時設定

変更後目標 ～ 令和3年3月 第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画改
訂時設定 を加えました。

(2) 対応等

修正後を第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画【改訂版】とします。